

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例
-------	------------------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

和歌山県橋本市

学校名

和歌山県立橋本高等学校

学校のURL

<http://www.hashimoto-h.wakayama-c.ed.jp/>

2. 学校紹介

学級数

1学年(5学級) 2学年(5学級) 3学年(5学級)

児童生徒数

1学年(199名) 2学年(198名) 3学年(195名)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【校訓】自治と自由

【学校教育の基本目標】

個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する創造性豊かな人間を育成する。

【人権教育目標】

生徒の生き生きとした学校生活や確かな未来を保障していくために、基本的人権の認識を豊かにし、その確立に努める。

(1)あらゆる機会を通して、生命の尊さや人権の大切さを自覚させ、幅広い人権意識を持たせる。

(2)平和の尊さについて学習させ、人権及び平和についての認識を豊かにさせる。

(3)学校教育のすべての分野で、民主的な考え方や行動のしかたを身につけさせる。

人権教育にかかる取組の全体概要

【1学年】

身のまわりの人権問題について理解を深めるとともに、よりよい学校づくりに向けて積極的に取り組む姿勢を身に付ける。地域の人々の活動を理解し、地域活動等に主体的に取り組んでいこうとする意欲や態度を身に付ける。「いじめ」「障害者の人権」

【2学年】

今日の社会における諸問題についての理解を深めるとともに、修学旅行等の機会を通じて「戦争と平和」の問題について重点的に学習する。「戦争による人権侵害」「平和の尊さ」

【3学年】

進路にかかわる差別、結婚問題などの具体的な学習を通じて、部落問題に対する科学的認識を深める。青年の生き方とかかわって広く人権学習をすすめる。「就職差別」「同和問題」

3. 特色ある実践事例の内容

・取組のねらい、目的

人権や人権問題についての知識を、単に知識としてだけでなく、生徒一人一人の中で内面化、主体化させ、人権が尊重される社会づくりを自らの問題としてとらえ行動しようとする意欲や態度を身につけさせることを目指す。

・取組を始めたきっかけ

毎年実施している3年生を対象とした「人権意識についてのアンケート」によると、3年間の取り組みにより、基本的人権に関する知識は、概ね習得できている。しかしながら、その知識を実践的な行動力へ発展させるまでには至っていない傾向が覗かれた。人権や人権問題についての知識理解を深化させ、人権意識を実践行動にまで繋げていくためには、指導方法等の工夫や改善等が必要であると考え、さらに一歩進んだ取り組みを実施することとした。

・取組の内容

研究推進委員会の開催（年間の具体的な研究推進計画について協議・検討）

生徒のアンケートの実施（生徒の学校生活や人権意識等）

現職教育の実施（生徒が抱える課題についての共通理解及び前年度の取組の評価と課題）

学習プラン部会の開催（組織的な取組につながる全体計画の作成と年間計画の改善・充実について協議）

学習プログラム部会の開催（効果的な教材や指導方法等の検討）

地域関係機関との協議（地域の人材を活用した指導方法等について協議・検討）

1年生全クラスでLHRの取組（地域で活躍する人権課題と直接関わって働く人やNPOの方など5名の方をゲストティーチャーに迎え、講演とディスカッションを実施）

生徒体験活動（夏季休業等を利用し地域のボランティア活動等に参加）

命の大切さを学ぶ学習（薬物乱用防止講演、smile seed project コンサート、スタントマンを活用した交通安全防止教室、講演会「種まく子どもたち」、2年生修学旅行での取組等）

・取組の主体や実施体制



・取組の頻度

関連会議（随時）現職教育年3回実施、各学年人権HR1年生8回（内3学期に3回）・2年生7回（内3学期に2回）・3年生4回実施、講演会等全学年4回・1年生のみ1回実施

4. 実践事例の実績、実施による効果

・取組の実績

毎年本校では、生徒会や各クラブ単位で参加しているボランティア活動以外に、係の職員が校内で案内するボランティア活動に、主体的に参加している生徒数は述べ100名を超えている。しかしながら同じ生徒が複数回参加していることもあり参加者実数を増加させることが課題の一つでもあった。

今回、地域で活躍する人権課題と直接関わって働く人やNPOの方など5名の方をゲストティーチャーに迎え、講演とディスカッションを実施した。生徒が、地域で人権や人権尊重の社会を支える活動をする専門家の存在を知り、その人と出会ったことで、人権感覚を培う契機となった。

また、人権尊重の姿勢を持って誠実に職責を果たす人々の話を聴くことにより、社会に存在する様々な課題の解決を自分の問題として捉えることができるようになった。多くの感想文からも、ボランティア活動等にも積極的に参加しようという気持ちが読み取れた。

（感想文）

NPOとは自分とはすごく遠い世界のようなもので自分とはまったく関係がないものだと思っていたけれど、今回の講演で、意外と自分と身近なものだということに気がついたような気がします。ディスカッションでは、自分以外のみんながどのように思ったかを聞くことができ、「私もそう思った」とか「なるほど、そう思ったんだ」など、心の中で色々と考えたりしていました。普段は、講演を聞いて感想を書いても、他の人の感想を読んだりはしないので、今回のディスカッションで他人の意見や感想を聞くことができたというのは良い経験になったと思います。私はボランティアとかはやったことがないので、今回の講演を聞いてボランティアに参加する機会があれば、できるだけ積極的に参加するようにしようと思いました。

中略

ボランティアはすごく大切なことだと今回の講演で学びました。ボランティアに参加すると、人との関わりが増えるので、自分の経験になると思いました。先生のような志を持つ人はかっこいいと思いました。

1 学年 LHR 学習単元例

単元目標

障害のある人も、ない人も、みんなで支え合える社会づくりに向けて、地域の一員として積極的に参加・参画していこうとする態度を育成する。

展開

時間	学習活動	支援及び留意点	備考
5 限目	ゲストティーチャーの話を資料と照らし合わせながら聞く。	・各活動（ボランティア）について確認したうえで、取り組みや、それに対する各先生の考えや思いを聞き取らせる。 地域で活躍する方5名をゲストティーチャーとして招く	HR教室
6 限目	講演の内容をふまえたディスカッションを行う。 講演、ディスカッションを通しての感想文を書く。	・講演を聞いての感想を話し合わせ、意見交換をさせる。	HR教室

各学年人権LHR計画

月	1 学年	2 学年	3 学年
4 月	(HRづくり) 新入生アンケート	(HRづくり)	(HRづくり)
5 月	(HRづくり) 身のまわりの人権問題	(HRづくり) 平和と人権	(HRづくり) 解放への展望
6 月	地域と連携した人権教育	平和と人権	
7 月			
8 月	【全校登校日】「戦争と平和」について(高1・2年、中1・2・3年) 地域のボランティア活動等への参加		
9 月			解放への展望
10 月	地域と連携した人権教育	平和と人権	
11 月		平和と人権	人権学習のまとめ
12 月		[修学旅行]平和と人権	
1 月	地域と連携した人権教育	平和と人権	
2 月	地域と連携した人権教育 研究授業・研究協議		
3 月	人権学習のまとめ	人権学習のまとめ	

5. 実践事例についての評価

人権尊重の意識や実践的な行動力は、一方的な教え込みではなく、生徒自らが主体的に、他の生徒とともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することをおしてはじめて身につくものと考え。さらに、だれもが住みよい社会づくりに向けて地域の一員として積極的に参加・参画していこうとする態度を育成するためには、学校以外の様々な人々と触れ合い、学ぶことも有効であると考え。今回の実践では、「協力」「参加」「体験」を中核とした学習形態等を取り入れた。また、地域の関係機関や様々な人々等と連携することにより、多様な学習活動の展開することができた。こういった取組は、生徒の人権感覚の育成に効果があったものと考え。さらに、保護者や地域の学校に対する、各講演会等への参加の呼びかけなどの取組は好評を得ており、本校の人権教育について理解の促進に繋がったと考える。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

和歌山県立橋本高等学校

第3学年の生徒を対象とした「人権意識についてのアンケート」を毎年実施している。この調査結果を分析して実践の方向性を定め、学校における人権教育に関わる様々な教育活動を展開している。

本実践事例において、人権課題に直接関わる方々やNPOの関係者と交流することにより、生徒は、社会に存在する様々な課題の解決を自分の問題として捉えるようになり、ボランティア活動への参加率も高まっていると報告されている。

このような取組は、生徒に人権感覚を培うことの契機となる。また、人権尊重の姿勢をもって誠実に職責を果たす人々の姿に触れることは、生徒が自分自身の将来設計やキャリア形成を考える上で、教育的効果が高い。生徒の発達の段階を踏まえた事例として、他の地域・学校への波及効果が期待できる。